

**「防災」と「障がいのある方への情報提供」に関する
アンケート集計**

京都市会議員 西山 信昌

アンケートの概要

1、アンケートの目的

平成29年9月発行の「下京まっすぐジャーナル第6号」に掲載した防災や障害者差別解消法、わかりやすい情報提供に関し、市民の意見を調査し、今後の市政に反映すべき課題等を明らかにするため実施した。

2、アンケートの方法

下京区内の「下京まっすぐジャーナル第6号」送付対象世帯のうち、地域間の偏りがでないように2,000世帯を抽出し、「下京まっすぐジャーナル第6号」とともに、アンケート用紙及び料金受取人払郵便の返信用封筒を同封のうえ郵送した。

3、アンケートの期間

平成29年9月25日にアンケートを発送し、平成29年10月20日までの返送を依頼した。

4、回答数

125件

アンケート結果を得ての所感

防災について

防災訓練に「ほとんど参加したことがない（参加したことがない）」人が4割を超えた。今後の防災力の強化を考える上において、この層にどのようにアプローチしていくかが課題と思われる。それにあたっては、防災訓練に参加したことがない理由として、「開催されているのを知らない」との回答が最も多く、周知の徹底や工夫により、より多くの方が防災訓練に参加することが見込まれると思われる。

また、避難情報の一部名称変更の認知度も低いことがわかり、防災意識の底上げの必要性を感じさせる結果となった。

私自身、引き続き防災力の向上に向けて全力で取り組んでまいりたい。

障がいのある方への情報提供について

障害者差別解消法の認知度はまだまだ低く、更なる啓発の必要性を感じる結果となった。「わかりやすい版」などわかりやすい情報提供の推進については、大多数の人が市が取り組みを進めることに賛意を示す結果となった。今般、市の障がい者施策の根幹である「京都市障害者施策推進計画（はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン）」において、「わかりやすい版」が作成されることは大きな前進であり、今後、市政をはじめ社会のあらゆる場面でわかりやすい情報提供が広がることを期待し、私も引き続き取り組んでまいりたい。

アンケート集計【概要版】

①性別・年齢について教えてください。

性別 1 男性 (50名) 2 女性 (56名) 無回答 (19名)
年齢 (20歳未満 (0名) 20代 (0名) 30代 (2名) 40代 (6名) 50代 (11名)
60代 (27名) 70代 (46名) 80代 (26名) 90歳以上 (4名) 無回答 (3名))

②地域で実施されている防災訓練への参加状況について教えてください。

1 概ね年に1回は参加している (41名) 2 2～3年に1回は参加している (29名)
3 ほとんど参加したことがない (参加したことがない) (53名) 無回答 (2名)

【②で「3ほとんど参加したことがない(参加したことがない)」と答えた方のみお答えください】

③参加したことがない理由について、最もあてはまるものはどれですか。

1 開催されているのを知らない (19名) 2 見知らぬ人が多いので行きづらい (5名)
3 時間がない (12名) 4 参加する必要性を感じない (5名) 5 その他 (10名)
無回答 (74名)

④避難情報の名称の一部が、避難準備情報→避難準備・高齢者等避難開始、避難指示→避難指示(緊急)に変わりましたが、ご存じでしたか。

1 はい (37名) 2 いいえ (今回はじめて知った) (85名) 無回答 (3名)

【④で「1はい」と答えた方のみお答えください】

⑤避難情報は、避難準備・高齢者等避難開始→避難勧告→避難指示(緊急)の順に緊迫度が高くなりますが、ご存じでしたか。

1 (変更前の名称だが) 1年以上前から知っている (8名)
2 この1年くらいの間に知った (27名) 3 今回はじめて知った (16名)
無回答 (74名)

⑥障害者差別解消法が平成28年4月1日から施行されました。この法律では事業者に対して、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供(事業者においては、対応に努めること)」を求めています(以下「法律の内容」といいます)。このことに関連してお尋ねします。

1 法律の名称も法律の内容も知っていた (14名)
2 法律の名称は知らなかったが、法律の内容は知っていた (26名)
3 法律の名称のみ知っていた (9名)
4 法律の名称も法律の内容も今回はじめて知った (68名) 無回答 (8名)

⑦活字情報の理解に困難さを抱えている方に対して、漢字にルビをふったり、平易な表現にこころがけたいいわゆる「わかりやすい版」を作成されている事例があることはご存じでしたか。

1 はい (17名) 2 いいえ (今回はじめて知った) (102名) 無回答 (6名)

⑧市が今後「わかりやすい版」の取り組みを進めるとすれば、そのことについてどう思いますか。

- 1 ぜひ進めるべき（74名） 2 どちらかといえば進めるべき（33名）
3 わからない（9名）
4 どちらかといえば進めるべきでない（1名） 5 進めるべきでない（1名）
無回答（7名）

⑨「わかりやすい版」や今回の下京まっすぐジャーナルの「わかりやすい版」の取り組みにご意見がございましたら、ぜひお聞かせください。

省略

⑩その他、市政に関するご意見、ご提案、ご要望がございましたら、ぜひお聞かせください。
（後日、連絡を希望される場合は、お名前、ご住所、ご連絡先などもご記入ください）

省略



まっすぐ！あなたに。
まっすぐ！未来へ。

京都市会議員 西山のぶまさ



下京 まっすぐジャーナル

Shimogyo Massugu Journal

第6号 2017. September

京都市会議員 西山のぶまさ事務所
京都市下京区大宮薄木津屋敷上る土之町417-1
ナカキンスフラット201号室 〒600-8266
TEL:075-746-2725 FAX:075-320-2454
E: n.n.massugu24@gmail.com

わかりやすい版(ルビ付き)おても面

災害に強いまちづくりへ!

毎年のように日本のどこかで台風や豪雨のため、大きな被害が出ています。また、昨年は、熊本で大きな地震が起こりました。災害はいつ起こるかわかりません。でも、事前に準備をすることで被害を減らすことができます。西山のぶまさは、災害に強いまちづくりを目指し、全力で取り組んでいます。



皆さんも京都市市民防災センターに

西山のぶまさは、8月25日、南区にある京都市市民防災センターに行きました。このセンターでは、台風の風の強さ(左の写真)や地震の揺れの強さなどを体験できます。「見る」「聴く」「触れる」「感じる」ことで多くのことが学べます。お子さん向けのコーナーもあるので、皆さん、ぜひ行ってください。

避難が必要な時に出る情報(避難情報)

平成28年8月に岩手県岩泉町で台風のため、多くの高齢者が亡くなりました。高齢者が住んでいた施設では、避難情報がどんな意味なのかを正しく理解することができず、避難が必要なのに避難しなかったため、逃げ遅れました。この災害をきっかけに、避難が必要な時に出る情報の呼び方をわかりやすく変えることになりました。

「避難情報」は3種類! ※順番に発令されるとは限りません。



災害への備えあれこれ

防災マップの確認

京都市防災マップは、地震用と水災害用の2種類あります。雨がたくさん降った時に危ない場所や自分が避難する場所を確かめましょう。



非常持ち出し品の準備

食料や貴重品など、非常時に持ち出す物の準備をしましょう。



防災訓練への参加

地域ごとに防災訓練が行われています。積極的に参加しましょう。



●他にもできることはたくさんあります。京都市ホームページの防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」(<http://www.bousai-kyoto-city.jp/bousai/>)には防災マップや避難所の場所などがたくさん載っています。

下京まっすぐジャーナル第6号の表面は、「わかりやすい版」としてつくりました。「わかりやすい版」をつくらうと思ったきっかけなどについては、裏面の「西山のぶまさからのメッセージ」をご覧ください。

まっすぐ!▶あなたに。西山のぶまさの日々の活動から

「教育福祉委員会」で質問を重ねる

西山のぶまさは、概ね月2回開催される教育福祉委員会で質問を重ねています。

障がい者のコミュニケーション支援

障害者差別解消法が平成28年4月1日から施行され、役所や事業者に対して「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めるようになりました。西山のぶまさは、市の窓口において、障がい者に対するコミュニケーション支援を一層充実させ、知的障がいなどで活字情報の理解が困難な方にわかりやすい文書や冊子を作成するように訴えました。



教員の働き方改革

文部科学省が全国の小中学校を対象に実施した調査では、教員の時間外労働が見逃ごせない状態になっていることが判明しました。例えば、一般に「過労死ライン」とされる月80時間を超える時間外労働をしている教諭は、小学校で34%、中学校で58%にのぼっています。このままでは、教員の心身の健康が損なわれかねず、子どもに向き合う時間が十分に確保できません。教員の健康があってこそ教育です。こうした状況を改善できるよう教員の働き方改革を求めました。



病児保育の充実

「病児保育」とは、子どもが病気になった時、仕事などの都合で、どうしても家庭で保育ができない場合、医療機関に付設された施設が一時的に保育を行う制度です。今、非常にニーズが高いことから年々整備が進んでいます。お母さんの生の声を聞いても、高い期待がたくさん寄せられています。まだまだ課題はありますが、より良い制度にできるよう充実を求めました。



まっすぐ!▶未来へ。西山のぶまさからのメッセージ

ジャーナルの「わかりやすい版(ルビ付き)」をつくらう!

「なかなか政治家の声が届かないんです」—ある障害者団体の全国集会に参加した時、知的障がいを抱える方についての発言が、今でも私の心から離れません。与えられる活字情報を理解すること自体が困難で、誰に投票してよいか分からない。そもそも知的障がいを抱える方にとって、活字そのものがとても届きにくいことを思い知らされました。そして、それは決して政治の情報だけでなく、生活に必要な行政情報も、十分に届いていないということに改めて気付かされたのです。

知的障がいなど、活字情報の理解に困難を抱える方々にとっては、家族等からの間接的な情報提供が中心で、直接、本人にわかりやすく情報が届けられることは極めてまれであるというのが現状です。聴覚障がい者には手話、視覚障がい者には点字がありますが、活字情報が理解しづらい方々に対して、わかりやすい表現が、どの程度配慮されているかといえば、弱者に対して最大に配慮すべき行政機関ですら、とても充実しているとは言えないでしょう。昨年4月、障害者差別解消法が施行されましたが、障がいを抱え



た方が自らの意思決定をきちんと行うためには、必要な情報をわかりやすく得られる環境を整備し、その権利を十分に保障しなければなりません。私が所属する教育福祉委員会では、京都市に対して、

一層わかりやすく情報を提供できるよう、対応を求めています。

しかし、行政に働きかけるのであれば、自分自身こそ率先して誰にもわかりやすい情報提供に努力しなければならないのではないかと—そんなふうに思い立って、今回の「下京まっすぐジャーナル」第6号の表面を「わかりやすい版」として編集してみました。

私なりに、いくつもの文献を読み、先行事例の研究にも取り組みましたが、不十分な点も多々あると思います。皆様はどのような感想をお持ちになったでしょうか。率直にいろんなご意見を頂戴できれば、これ以上の喜びはありません。いずれにせよ、今後の社会のあらゆる場面で、誰にもわかりやすい情報提供への意識が啓発され広がっていけばと念願しております。私自身も、できる限り、「わかりやすい版」への取り組みを続けてまいりたいと決意しています。

●ジャーナルをご覧いただいている一部の方に、今号で紹介した防災や障がいのある方への情報提供に関連したアンケートを送付しています。今後の市政に役立てたいと思いますので、是非、ご協力をお願い申し上げます。

下京まっすぐジャーナル第6号は、印刷版のほかに、点字版、裏面のわかりやすい版も作成しています。それらを利用したいと希望される方は、西山のぶまさ事務所までご連絡ください。 ※点字版は、数に限りがあります。 ※裏面のわかりやすい版は、西山のぶまさのホームページにも掲載しています。

▶西山のぶまさ ホームページ <http://www.nishiyama-massugu.net/>



地域のチカラ

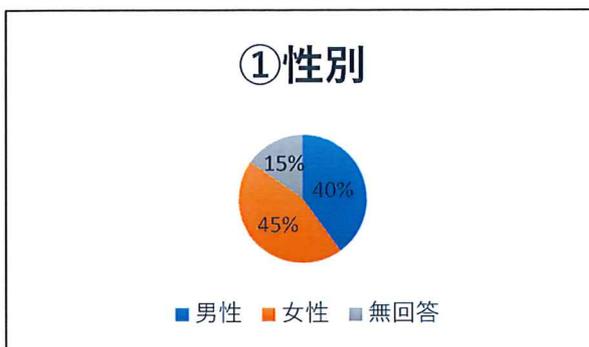
アンケート集計(詳細版)

【注】

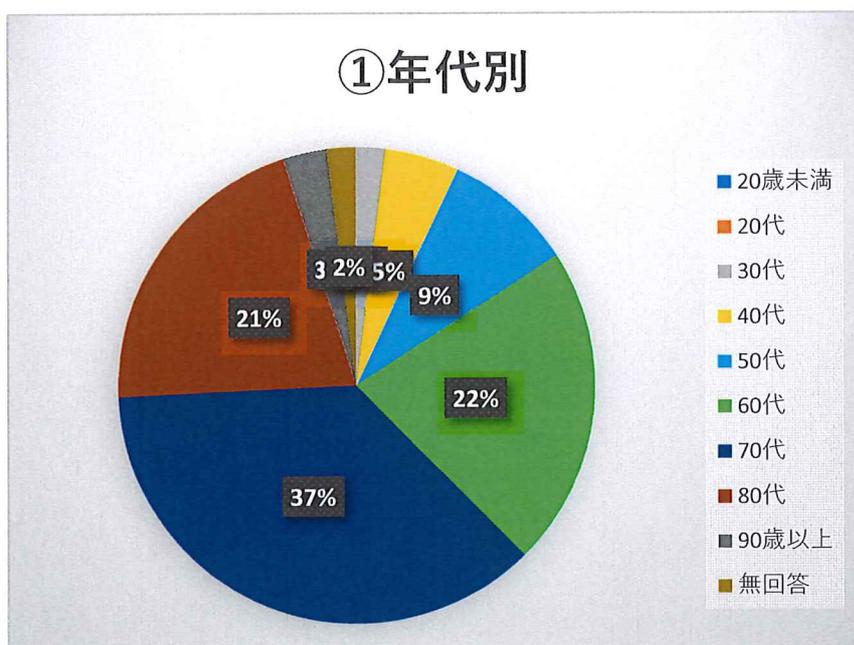
- ・割合は、小数点以下を四捨五入して表示しています。
- ・割合の合計は、端数処理の関係で100%にならない場合があります。
- ・③及び⑤においては、その直前の問いの回答により回答いただくこととなりますが、直前の問いに対する回答から矛盾が生じるものについても、調整は行っていません。

①性別・年齢について教えてください。

選択肢	回答数	割合
男性	50	40%
女性	56	45%
無回答	19	15%
合計	125	



選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20歳未満	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20代	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
30代	2	2%	1	2%	1	2%	0	0%
40代	6	5%	1	2%	4	7%	1	5%
50代	11	9%	5	10%	6	11%	0	0%
60代	27	22%	12	24%	12	21%	3	16%
70代	46	37%	19	38%	16	29%	11	58%
80代	26	21%	8	16%	15	27%	3	16%
90歳以上	4	3%	2	4%	2	4%	0	0%
無回答	3	2%	2	4%	0	0%	1	5%
合計	125		50		56		19	



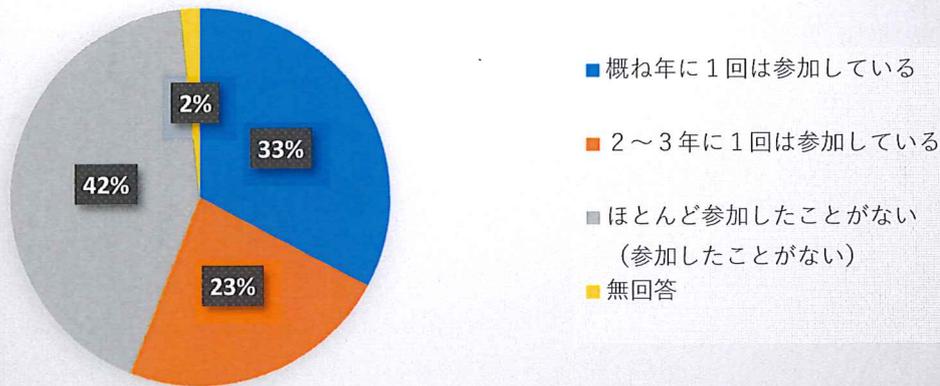
回答者の属性は、性別では概ね同割合であった。

年代別では、60代と70代とで59%を占めており、これに80代を加えると80%となる。

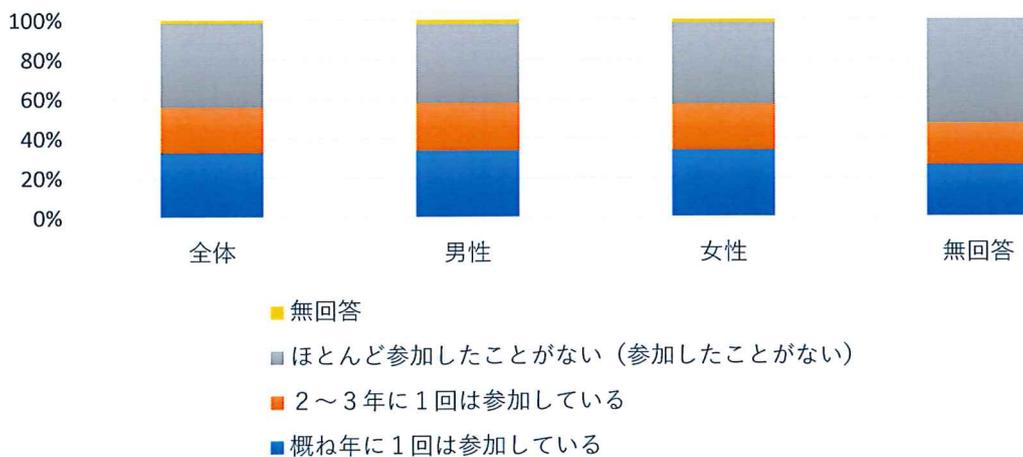
②地域で実施されている防災訓練への参加状況について教えてください。

選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
概ね年に1回は参加している	41	33%	17	34%	19	34%	5	26%
2～3年に1回は参加している	29	23%	12	24%	13	23%	4	21%
ほとんど参加したことがない（参加したことがない）	53	42%	20	40%	23	41%	10	53%
無回答	2	2%	1	2%	1	2%	0	0%
合計	125		50		56		19	

②防災訓練への参加状況（全体）



②防災訓練への参加状況（性別比較）



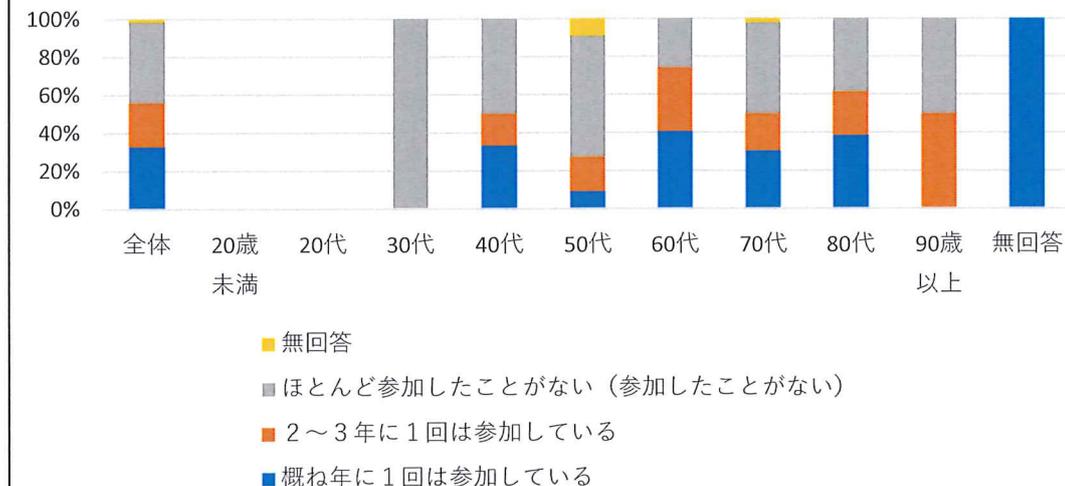
年代別回答数

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
概ね年に1回は参加している	41	0	0	0	2	1	11	14	10	0	3
2～3年に1回は参加している	29	0	0	0	1	2	9	9	6	2	0
ほとんど参加したことがない（参加したことがない）	53	0	0	2	3	7	7	22	10	2	0
無回答	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
合計	125	0	0	2	6	11	27	46	26	4	3

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
概ね年に1回は参加している	33%	0%	0%	0%	33%	9%	41%	30%	38%	0%	100%
2～3年に1回は参加している	23%	0%	0%	0%	17%	18%	33%	20%	23%	50%	0%
ほとんど参加したことがない（参加したことがない）	42%	0%	0%	100%	50%	64%	26%	48%	38%	50%	0%
無回答	2%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	2%	0%	0%	0%

②防災訓練への参加状況（年代別比較）



防災訓練に2，3年に1回以上「参加している」人は、全体で50%を超える反面、「ほとんど参加したことがない」人が42%いる。

年代別では60代～80代で「参加している」人の割合が多い。

【②で「3ほとんど参加したことがない（参加したことがない）」と答えた方のみお答えください。】

③参加したことがない理由について、最もあてはまるのはどれですか。

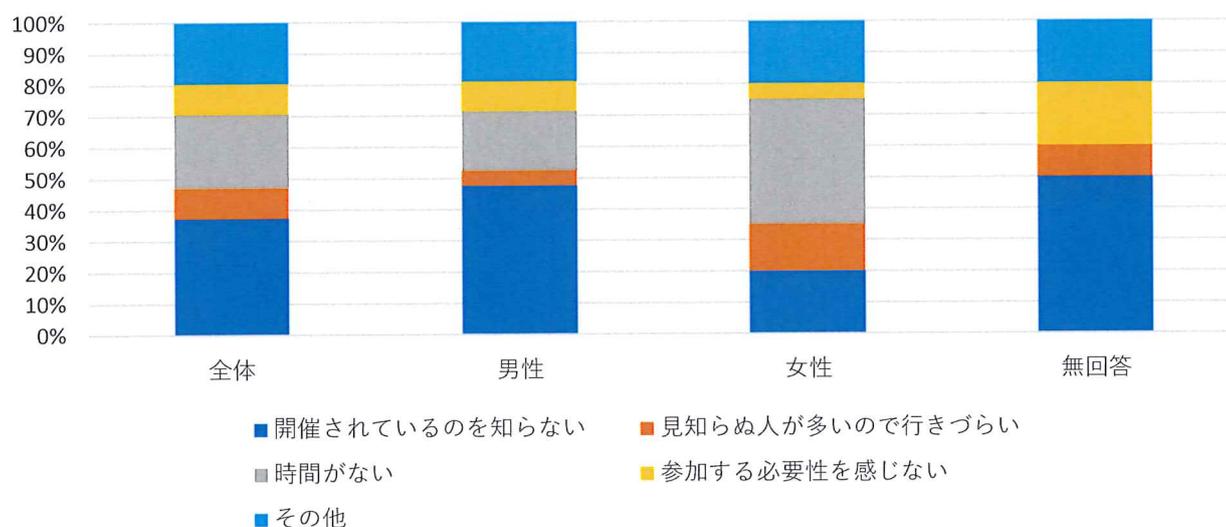
選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
開催されているの知らない	19	37%	10	48%	4	20%	5	50%
見知らぬ人が多いので行きづらい	5	10%	1	5%	3	15%	1	10%
時間がない	12	24%	4	19%	8	40%	0	0%
参加する必要性を感じない	5	10%	2	10%	1	5%	2	20%
その他	10	20%	4	19%	4	20%	2	20%
合計	51		21		20		10	

※無回答を除いて集計した

③防災訓練に参加したことがない理由（全体）



③防災訓練に参加したことがない理由（性別比較）



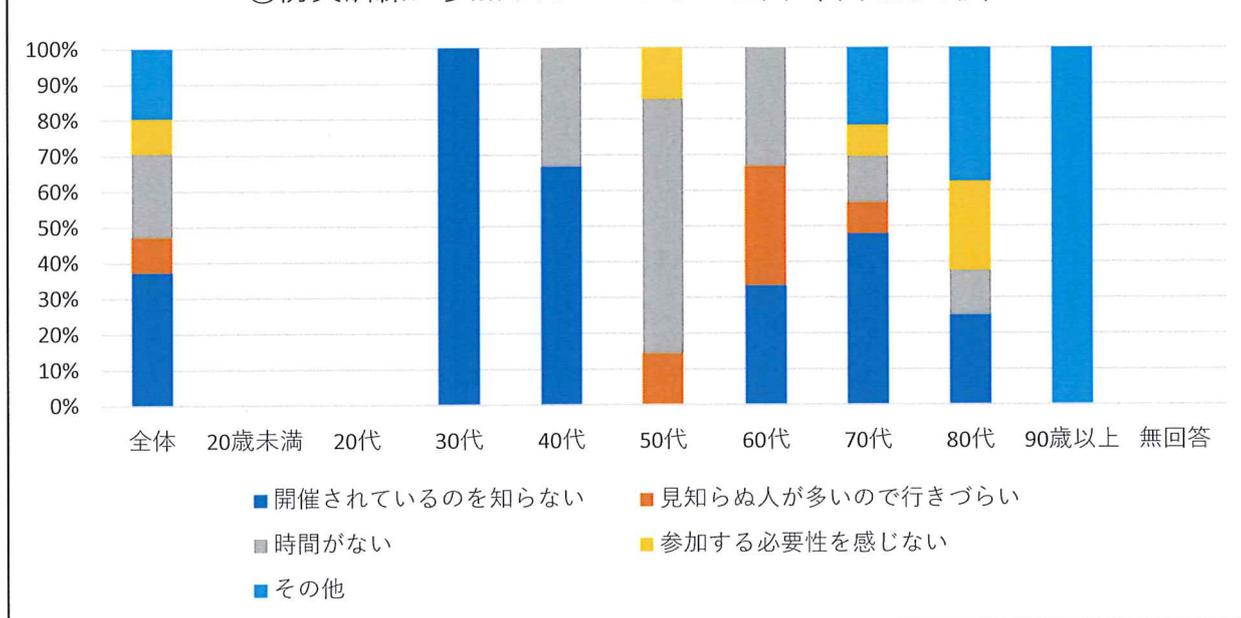
年代別回答数（無回答を除いて集計した）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
開催されているの知らない	19	0	0	2	2	0	2	11	2	0	0
見知らぬ人が多いので行きづらい	5	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0
時間がない	12	0	0	0	1	5	2	3	1	0	0
参加する必要性を感じない	5	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0
その他	10	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0
合計	51	0	0	2	3	7	6	23	8	2	0

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
開催されているの知らない	37%	0%	0%	100%	67%	0%	33%	48%	25%	0%	0%
見知らぬ人が多いので行きづらい	10%	0%	0%	0%	0%	14%	33%	9%	0%	0%	0%
時間がない	24%	0%	0%	0%	33%	71%	33%	13%	13%	0%	0%
参加する必要性を感じない	10%	0%	0%	0%	0%	14%	0%	9%	25%	0%	0%
その他	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	22%	38%	100%	0%

③防災訓練に参加したことがない理由（年代別比較）

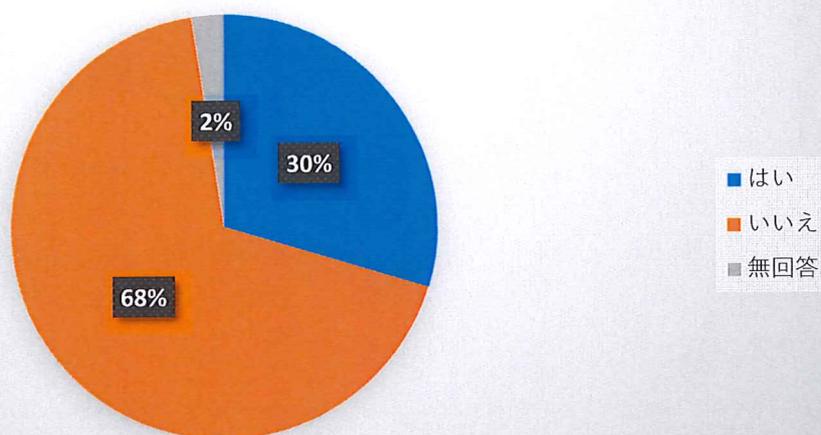


「開催されているの知らない」が一番多く、「時間がない」と続き、合わせて6割を超えた。
「その他」は健康上の理由が多かった。

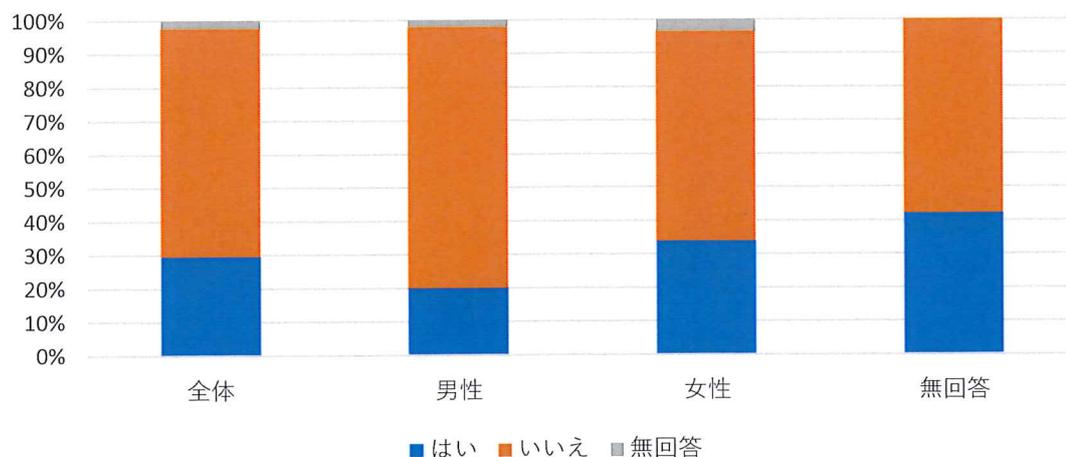
④避難情報の名称の一部が、避難準備情報→避難準備・高齢者等避難開始、避難指示→避難指示（緊急）に変わりましたが、ご存じでしたか。

選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	37	30%	10	20%	19	34%	8	42%
いいえ	85	68%	39	78%	35	63%	11	58%
無回答	3	2%	1	2%	2	4%	0	0%
合計	125		50		56		19	

④避難情報の名称変更の認知度（全体）



④避難情報の名称変更の認知度（性別比較）

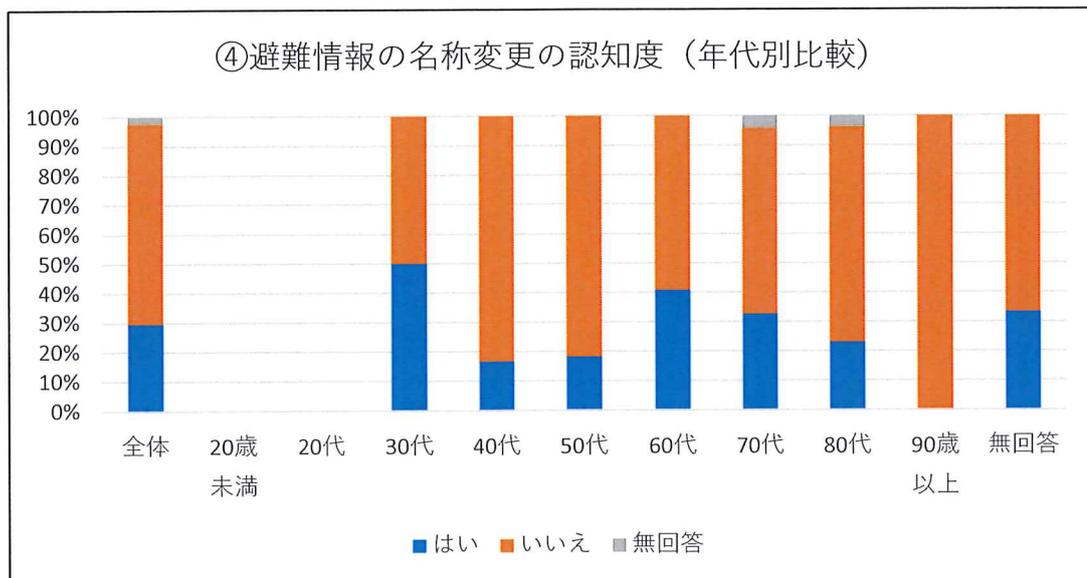


年代別回答数

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
はい	37	0	0	1	1	2	11	15	6	0	1
いいえ	85	0	0	1	5	9	16	29	19	4	2
無回答	3	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
合計	125	0	0	2	6	11	27	46	26	4	3

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
はい	30%	0%	0%	50%	17%	18%	41%	33%	23%	0%	33%
いいえ	68%	0%	0%	50%	83%	82%	59%	63%	73%	100%	67%
無回答	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	4%	0%	0%



避難情報の名称の一部が変わったことを知る人は、30%であった。

性別では女性の認知度がやや高く、年代別では母数の少ない30代はさておき、60代の認知度がやや高かった。

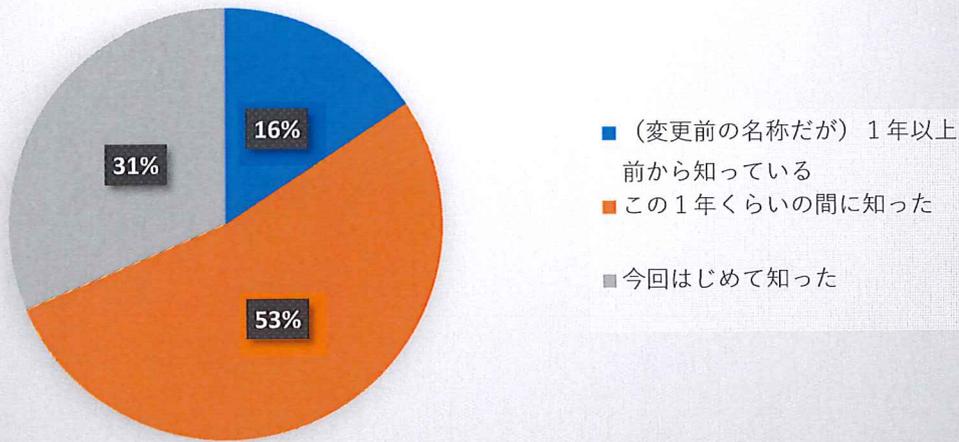
【④で「1はい」と答えた方のみお答えください。】

⑤避難情報は、避難準備・高齢者等避難開始→避難勧告→避難指示（緊急）の順に緊迫度が高くなりますが、ご存じでしたか。

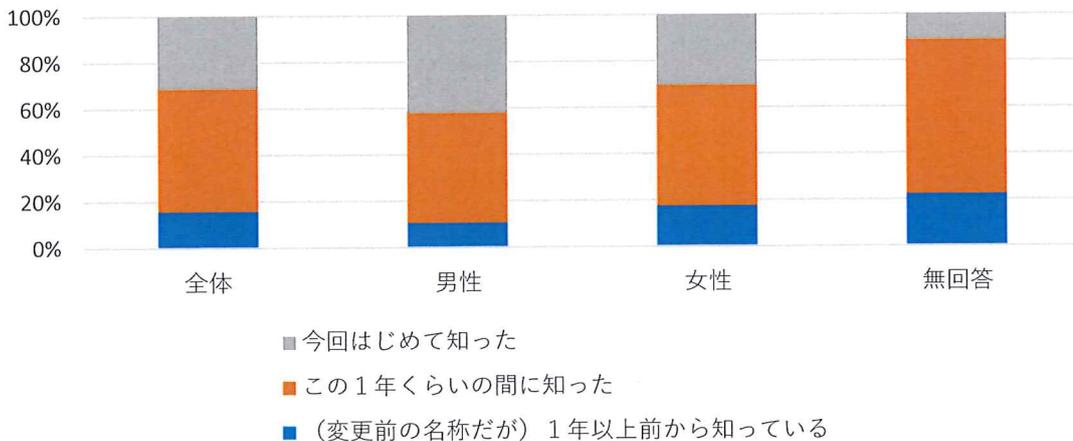
選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
(変更前の名称だが) 1年以上前から知っている	8	16%	2	11%	4	17%	2	22%
この1年くらいの間に知った	27	53%	9	47%	12	52%	6	67%
今回はじめて知った	16	31%	8	42%	7	30%	1	11%
合計	51		19		23		9	

※無回答を除いて集計した

⑤避難情報の緊迫度の認知状況（全体）



⑤避難情報の緊迫度の認知状況（性別比較）



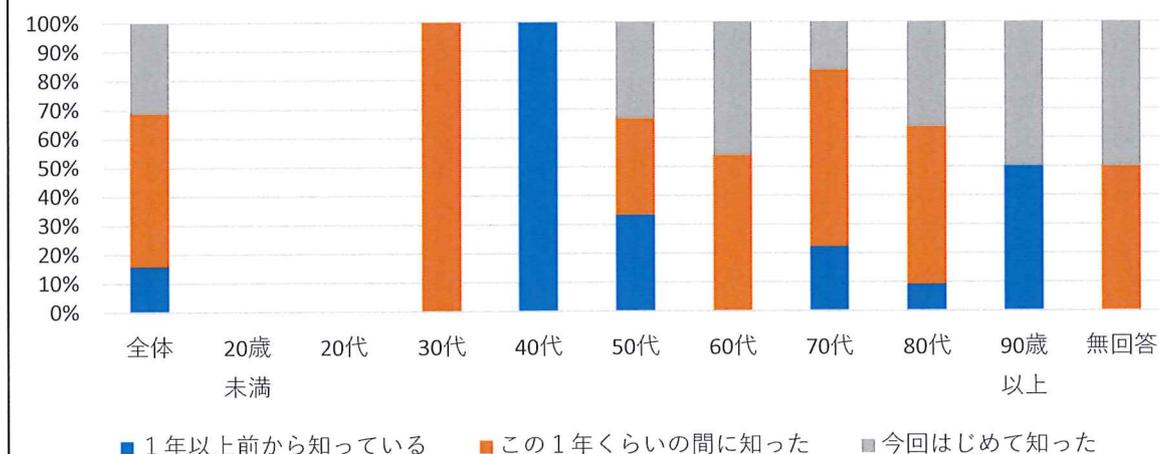
年代別回答数（無回答を除いて集計した）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
（変更前の名称だが）1年以上前から知っている	8	0	0	0	1	1	0	4	1	1	0
この1年くらいの間に知った	27	0	0	1	0	1	7	11	6	0	1
今回はじめて知った	16	0	0	0	0	1	6	3	4	1	1
合計	51	0	0	1	1	3	13	18	11	2	2

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
（変更前の名称だが）1年以上前から知っている	16%	0%	0%	0%	100%	33%	0%	22%	9%	50%	0%
この1年くらいの間に知った	53%	0%	0%	100%	0%	33%	54%	61%	55%	0%	50%
今回はじめて知った	31%	0%	0%	0%	0%	33%	46%	17%	36%	50%	50%

⑤避難情報の緊迫度の認知状況（年代別比較）

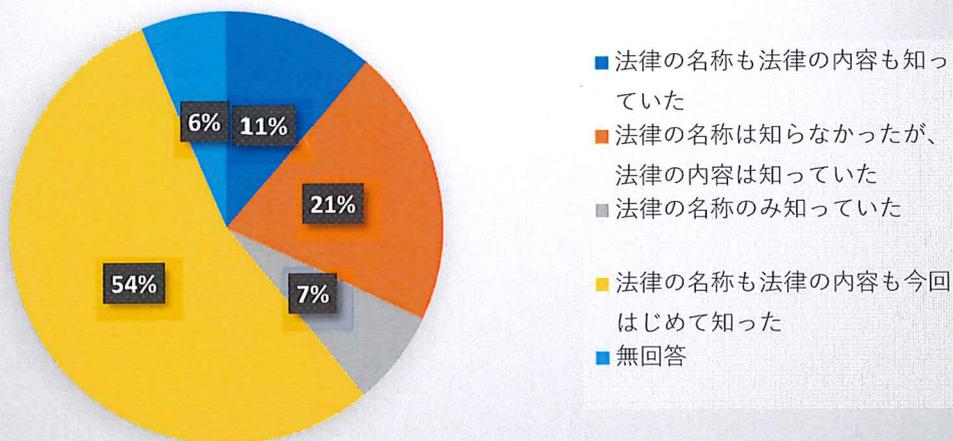


避難情報の緊迫度の認知状況については、避難情報の名称の一部変更を知っていた人（一部その他の人も含まれる）の53%が「（変更前の名称だが）1年以上前から知っている」と回答した。他方「今回はじめて知った」人も31%いた。

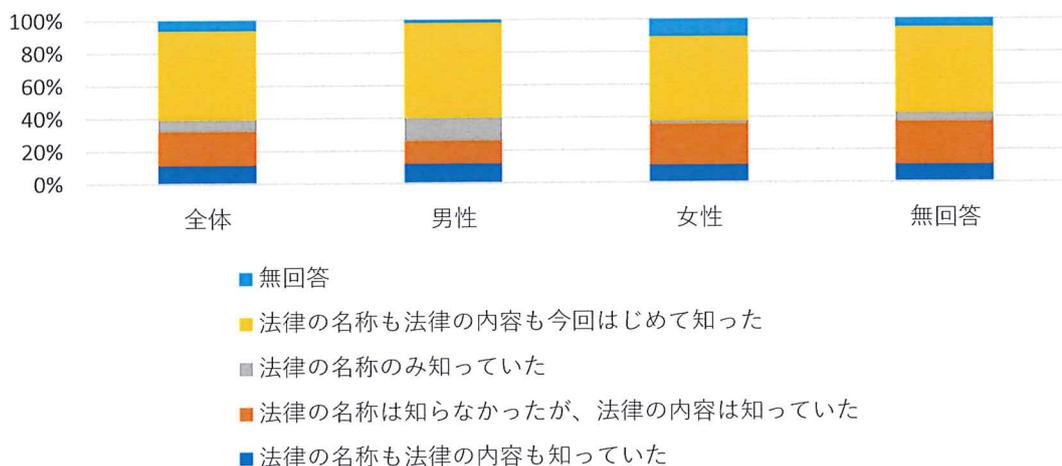
⑥障害者差別解消法が平成28年4月1日から施行されました。この法律では事業者に対して、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供（事業者においては、対応に努めること）」を求めています（以下「法律の内容」といいます）。このことに関連してお尋ねします。

選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
法律の名称も法律の内容も知っていた	14	11%	6	12%	6	11%	2	11%
法律の名称は知らなかったが、法律の内容は知っていた	26	21%	7	14%	14	25%	5	26%
法律の名称のみ知っていた	9	7%	7	14%	1	2%	1	5%
法律の名称も法律の内容も今回はじめて知った	68	54%	29	58%	29	52%	10	53%
無回答	8	6%	1	2%	6	11%	1	5%
合計	125		50		56		19	

⑥障害者差別解消法の認知度（全体）



⑥障害者差別解消法の認知度（性別比較）

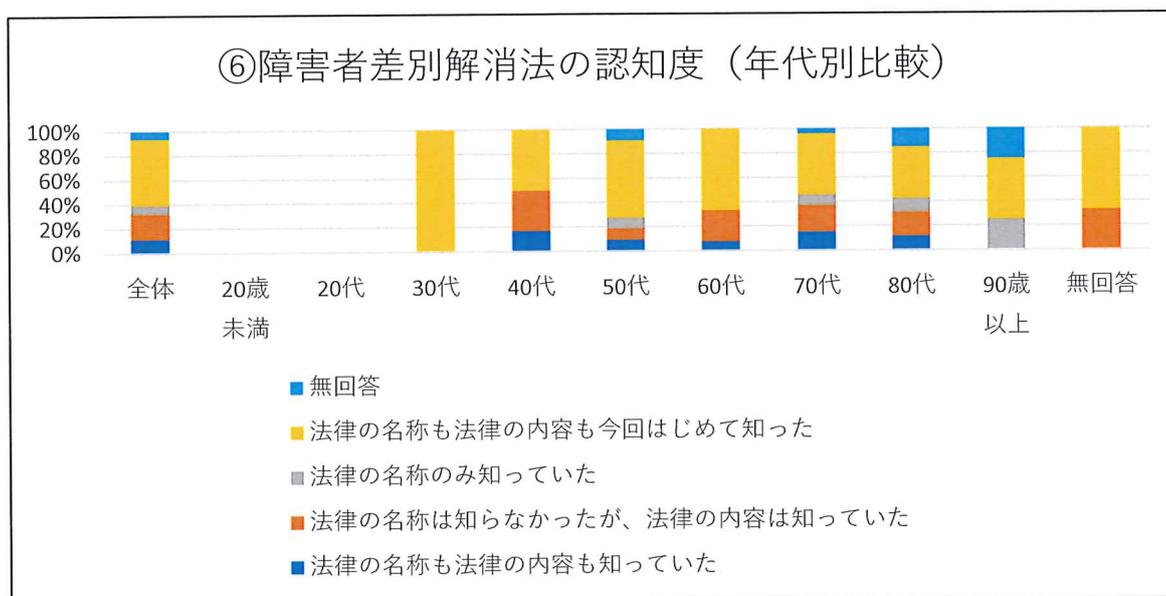


年代別回答数

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
法律の名称も法律の内容も知っていた	14	0	0	0	1	1	2	7	3	0	0
法律の名称は知らなかったが、法律の内容は知っていた	26	0	0	0	2	1	7	10	5	0	1
法律の名称のみ知っていた	9	0	0	0	0	1	0	4	3	1	0
法律の名称も法律の内容も今回はじめて知った	68	0	0	2	3	7	18	23	11	2	2
無回答	8	0	0	0	0	1	0	2	4	1	0
合計	125	0	0	2	6	11	27	46	26	4	3

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
法律の名称も法律の内容も知っていた	11%	0%	0%	0%	17%	9%	7%	15%	12%	0%	0%
法律の名称は知らなかったが、法律の内容は知っていた	21%	0%	0%	0%	33%	9%	26%	22%	19%	0%	33%
法律の名称のみ知っていた	7%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	9%	12%	25%	0%
法律の名称も法律の内容も今回はじめて知った	54%	0%	0%	100%	50%	64%	67%	50%	42%	50%	67%
無回答	6%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	4%	15%	25%	0%

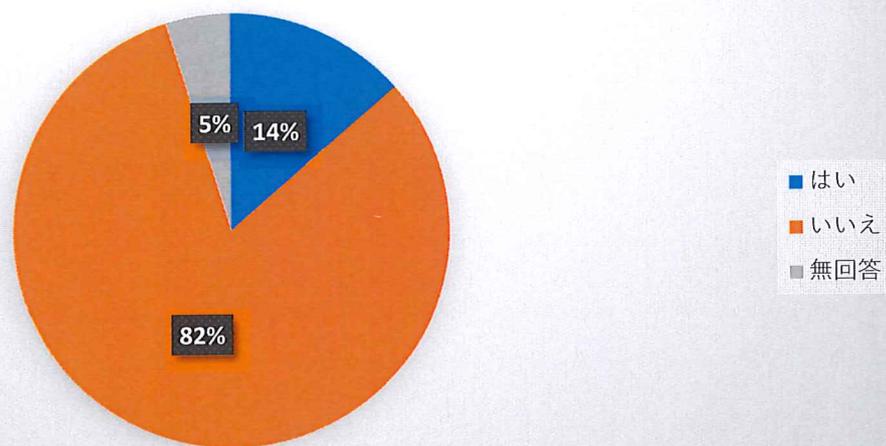


障害者差別解消法に関し、「法律の名称も法律の内容も今回はじめて知った」人が54%であった。
 「法律の名称も法律の内容も知っていた」人は11%であった。

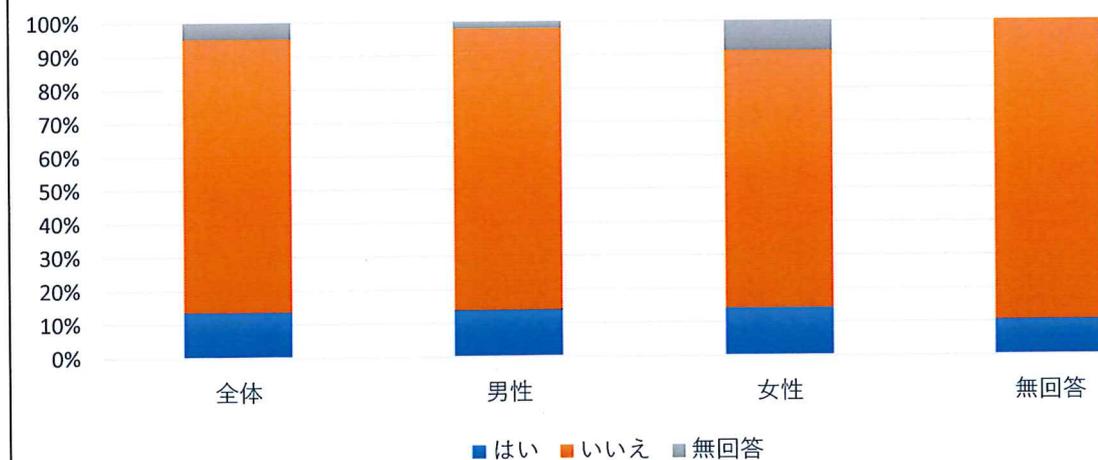
⑦活字情報の理解に困難さを抱えている方に対して、漢字にルビをふったり、平易な表現にところがけたいいわゆる「わかりやすい版」を作成されている事例があることはご存じでしたか。

選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	17	14%	7	14%	8	14%	2	11%
いいえ	102	82%	42	84%	43	77%	17	89%
無回答	6	5%	1	2%	5	9%	0	0%
合計	125		50		56		19	

⑦ 「わかりやすい版」の認知度（全体）



⑦ 「わかりやすい版」の認知度（性別比較）

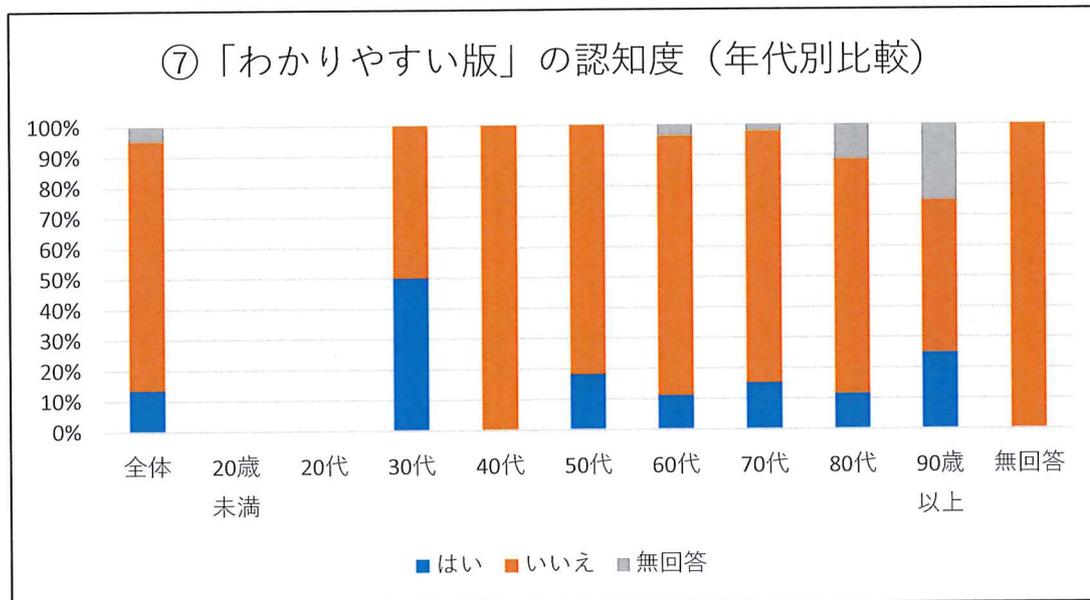


年代別回答数

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
はい	17	0	0	1	0	2	3	7	3	1	0
いいえ	102	0	0	1	6	9	23	38	20	2	3
無回答	6	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0
合計	125	0	0	2	6	11	27	46	26	4	3

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
はい	14%	0%	0%	50%	0%	18%	11%	15%	12%	25%	0%
いいえ	82%	0%	0%	50%	100%	82%	85%	83%	77%	50%	100%
無回答	5%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	2%	12%	25%	0%

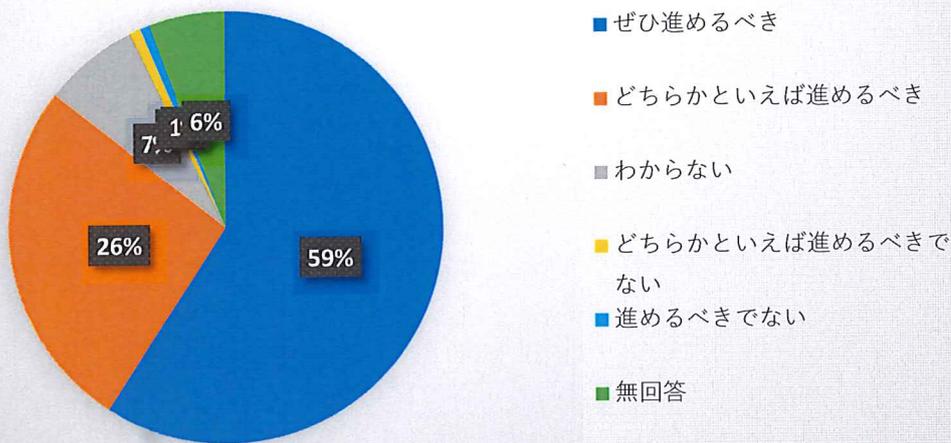


「わかりやすい版」の認知度は、性別、年代を問わず極めて低い。

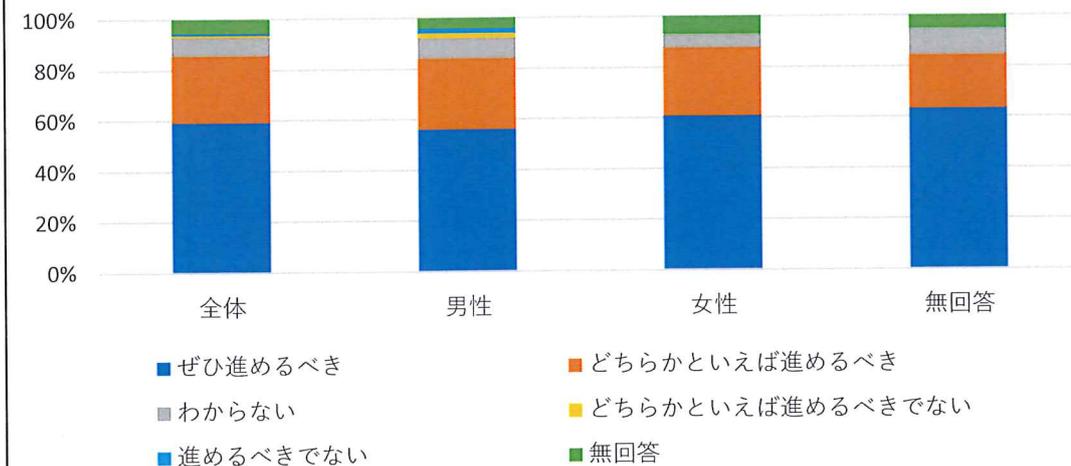
⑧市が今後「わかりやすい版」の取り組みを進めるとすれば、そのことについてどう思いますか。

選択肢	全体		男性		女性		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ぜひ進めるべき	74	59%	28	56%	34	61%	12	63%
どちらかといえば進めるべき	33	26%	14	28%	15	27%	4	21%
わからない	9	7%	4	8%	3	5%	2	11%
どちらかといえば進めるべきでない	1	1%	1	2%	0	0%	0	0%
進めるべきでない	1	1%	1	2%	0	0%	0	0%
無回答	7	6%	2	4%	4	7%	1	5%
合計	125		50		56		19	

⑧「わかりやすい版」の推進（全体）



⑧「わかりやすい版」の推進（性別比較）

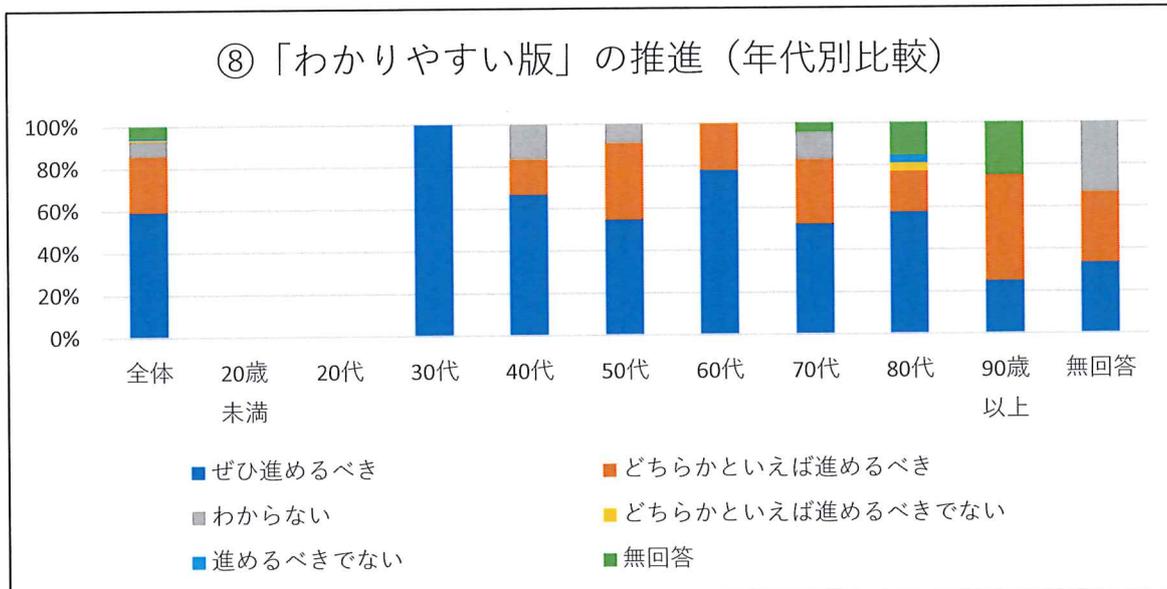


年代別回答数

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
ぜひ進めるべき	74	0	0	2	4	6	21	24	15	1	1
どちらかといえば進めるべき	33	0	0	0	1	4	6	14	5	2	1
わからない	9	0	0	0	1	1	0	6	0	0	1
どちらかといえば進めるべきでない	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
進めるべきでない	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
無回答	7	0	0	0	0	0	0	2	4	1	0
合計	125	0	0	2	6	11	27	46	26	4	3

年代別回答割合（割合は、年代中での回答割合を示す。）

選択肢	全体	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答
ぜひ進めるべき	59%	0%	0%	100%	67%	55%	78%	52%	58%	25%	33%
どちらかといえば進めるべき	26%	0%	0%	0%	17%	36%	22%	30%	19%	50%	33%
わからない	7%	0%	0%	0%	17%	9%	0%	13%	0%	0%	33%
どちらかといえば進めるべきでない	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%
進めるべきでない	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%	0%
無回答	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	15%	25%	0%



6割近くの人が「ぜひ進めるべき」と答え、「どちらかといえば進めるべき」と答えた人と合わせると85%の人が「進めるべき」と答えた。

⑨「わかりやすい版」や今回の下京まっすぐジャーナルの「わかりやすい版」の取り組みにご意見がございましたら、ぜひお聞かせください。

【わかりやすい版全体についてのご意見】

- ・誰にでもわかりやすく情報提供していくことは非常に大事なことだと思います。
- ・ますます高齢者が多くなるので良いと思います。
- ・今までになかったことなので良いことだ。
- ・「わかりやすい版」が作成されているのなら、どういうふうにみんなに知らされているのか、それすらわからない。
- ・わかりやすい、読みやすいのはありがたいが、紙幅が限られるので情報量が少なくなるのでは。

【下京まっすぐジャーナルについてのご意見】

- ・今まで知的障がいの方が与えられた情報を理解することが困難で家族からの情報提供が中心であるとのことに対してあまり考えたことはありませんでした。確かに聴覚障がい者には手話、視覚障がい者には点字があります。このまっすぐジャーナルを読んで考えさせられました。気づくことができよかったですと思います。
- ・小学校中学年位から理解できるような表示で、これならばどの年代の方にもわかりやすく、又、読んでみようかなと思わせるなど思いました。字も大きめでイラストがあるのもよいと思いました。
- ・下京まっすぐジャーナルの裏面（通常版）は読もうと思わなければ目に止まらないが、表面（わかりやすい版）は何気なく見てしまう、読みやすい。

- ・まっすぐジャーナルは大変よみやすい。説得力があります。
- ・今のままでわかります。
- ・やや文字が多く、読むのに抵抗があります。もう少しイラストやマンガを入れては。
- ・一目で理解できるような見出しをつけるなど、わかりやすい表現にこころがけてください。
- ・下京まっすぐジャーナルの裏面のメッセージにもルビがある方がよい。裏面も少し大きな字であれば疲れないと思う。
- ・固有名詞はルビが必要ですが、「毎年」や「日本」等には必要がないと思います。

⑩その他、市政に関するご意見、ご提案、ご要望がございましたら、ぜひお聞かせください。

(後日、連絡を希望される場合は、お名前、ご住所、ご連絡先などもご記入ください)

省略